

見守りカメラ実証実験開始

介護事業者協と ラムロック 高齢者徘徊など防ぐ

全国介護事業者協議会（本部東京都千代田区、座小田孝安理事長）と介護用カメラを手掛けるラムロック（本社福岡県飯塚市、赤間俊和社長）は、高齢者の自宅に独自の画像認識技術を搭載したカメラを設置し、介護サービスにつなげる実証実験を開始した。訪問介護事業者と連携し、一人暮らしの高齢者の徘徊（はいかい）やケガなどを防ぐ。

（佐々木閑）

ラムロックが製造販売するカメラ「みまもりCUBE E」は、赤外線センサーやマイク、画像データを送る通信機能などを搭載。検知したい人の身長や動作を個別に設定できるのが特徴だ。徘徊や転倒によるケガ、悪質な訪問販売などを想定

ラムロックが開発したカメラ「みまもりCUBE E」



連絡機能により徘徊を未然に防いだ事例もあったという。現在は訪問介護サービスなどを手掛けるケアメイット（本社東京都品川区）の利用者2人を対象に実証実験を行っている。

全国介護事

し、設定した動きがあった際に介護事業者や家族にメールを送る。

昨年、訪問介護サービスなどを手掛けるライフサービス（本社名古屋市中区）の利用者3人を対象に実証実験を行った。カメラの検知・

業者協議会の座小田理事長は、「検知設定をカスタマイズできることから、個人差の大きい訪問介護でも有効に活用できる」と話す。人手不足が進む介護業界で活用方法を検討する。